

日本臨床腫瘍薬学会雑誌

Journal of Japanese Society of Pharmaceutical Oncology

Vol.4
2016年6月



 JASPO

一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会

Contents

保険薬局薬剤師の病院見学事業について 地域医療連携委員会報告

日本臨床腫瘍薬学会地域医療連携委員会委員長
(国立がん研究センター東病院)

松井 礼子…… 1



保険薬局薬剤師の病院見学事業について 地域医療連携委員会報告

日本臨床腫瘍薬学会地域医療連携委員会委員長

松井 礼子

(国立がん研究センター東病院)

日本臨床腫瘍薬学会（JASPO）地域医療連携委員会では昨年度の事業計画の一環として、保険薬局薬剤師の病院見学会を行ったので報告する。昨今、外来がん化学療法患者が増加し、保険薬局は経口抗がん薬や副作用対策としての支持療法の処方箋を応需する機会が増えている。しかしながら、保険薬局薬剤師は、病院経験者が少なく、患者に係る医師・薬剤師・看護師の役割などの病院内での患者の環境やケアを知る機会は殆どないことから、患者対応に苦慮する場面も少なくない。そこで、本見学会の目的は、保険薬局薬剤師が、がん治療を行っている患者に関わる環境、各医療スタッフの役割を実際に見学することで、外来での経口抗がん薬の安全管理の分担を理解し、患者サービスの向上に役立てることとした。見学会は、地域医療連携委員会が見学受け入れ可能施設と見学希望者の取りまとめを行い、実施に至った。見学施設の選定は、がん医療に精通しており、かつ当委員会の委員が所属しているか、又は委員会と連携が取れる施設とし、7施設（愛知県がんセンター中央病院、神戸大学医学部附属病院、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、東京医療センター、東邦大学医療センター大橋病院、

病院見学会のお知らせ (JASPOホームページと都道府県薬剤師会で募集)

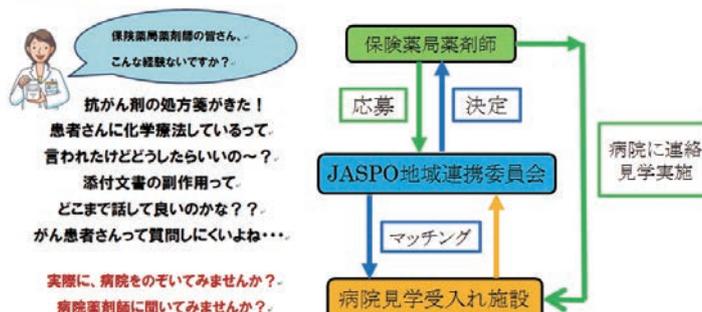


図1 病院見学会の参加募集と見学までの流れ

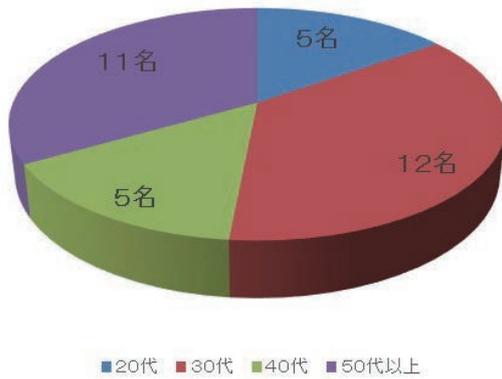
北海道がんセンター)にご協力を頂くことが出来た。見学者の募集はJASPOのホームページと各都道府県薬剤師会に案内状を送付し希望者を募った。(図1) 見学者応募期間は2014年11月17日～12月19日の1か月間とし、見学実施期間は2015年1月5日～2月27日の2か月間、1回(1コース)の研修時間を2時間程度とした。見学内容は、医療機関での患者に対する治療の流れ、がん治療関連部署の紹介と薬剤師の関わり、抗がん剤投与へのレジメンチェック体制、院内でのがん患者への病院薬剤師の介入、保険薬局への情報提供の確認を主軸とし、各施設での薬剤師の取り組みなどを盛り込み実施され

表1 病院見学会内容

病院見学内容:約2時間

○ 医療機関の患者に対するがん治療の流れ
診察前の検査・診察・治療・投薬・処方せん発行までの流れ
○ がん治療関連部署の紹介と薬剤師の関わり
調剤室、混注室、注射室、通院治療センター等の見学(調剤時の曝露対策も含む)、医薬品の管理(医療用麻薬、抗がん剤)
○ 抗がん剤投与へのレジメンチェック体制
注射抗がん剤や経口抗がん剤等のレジメンチェック、患者評価(体表面積・肝・腎機能)からの投与量の設定等、治療・投薬への患者情報の活用
○ 院内でのがん患者への病院薬剤師の介入(入院・外来問わず)
化学療法患者への服薬指導方法、患者指導用資料の活用方法
副作用マネジメントの実際、抗がん剤に対する支持療法の指導方法
○ 保険調剤薬局への情報提供の確認(可能な場合)
がん患者の院外処方せんに対して医療機関での治療情報を提供、投与量、投与期間、休薬期間の確認。お薬手帳等を用いた情報提供の確認。

年齢



抗がん剤を含む処方せんの応需枚数(月)

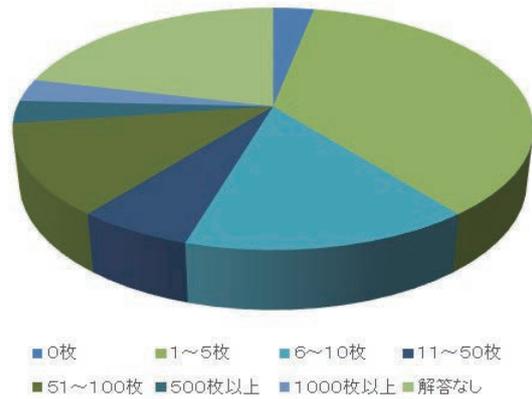


図2 見学者の背景 (n=33)

た。(表1) 総応募数38名、見学者に至ったのは33名であった。見学者の年齢は30代と50代以上が多く幅広い年代層であったことや、抗がん剤を含む処方せん枚応需枚数は10枚以内の比較的少ない施設の方の参加が多かったことが特徴的であった。(図2) 見学者へは見学直後と、見学後3か月の2回に渡りアンケート調査を行った。アンケート結果では、病院を見学することで、がん患者への介入や薬薬連携を進める上で有用であったか?との設問に対して、有用であったとの回答は100%であった。また、見学後3か月を経過して、がん患者との関わりに変化があったか?との回答では何らかの変化を感じた見学者は76%であり、具体的な変化の内容としては、「医師に提案して副作用を軽減できた」、「患者と積極的に話せる様になり、副作用発現時のアドバイスが出来た」、「学会に入会したりと、がんについて勉強するようになり意識が変わった」などであった。変化がなかった事例では、「がん医療の中で見えていない部分を知ったが、病院薬剤師との差や距離をどう縮めるかが見えない」、「がん患者に対応する機会がなかった」であった。(図3) 本見学会では、概ね目的は達成出来たと考える。しかしながら、見学者の受け入れ施設側の負担、運営側の負担が著しく

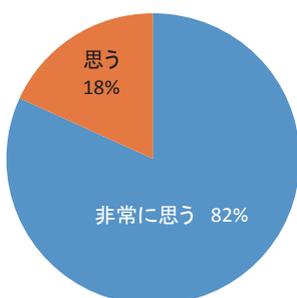


病院見学の風景

大きく、全国的に拡大して行くには大きい壁となる事も明らかとなった。そこで、病院見学をDVD化する方向で現在進めている。本見学会では、昨年8月31日に見学者を対象としたフォローアップ研修会も開催している。そこでは、アンケート調査の結果を報告すると共に、病院見学会のDVD化に盛り込む内容に関して、スモールグループディスカッションを行っている。抗がん剤治療中患者の1日を通じて、病院の機能や各職種の役割を紹介し、抗がん剤のチェック体制や患者介入、その中で薬薬連携に繋がるポイントを盛り込む予定で現在作成中である。皆様の何かしらのお役に立つことを期待している。

最後に、本見学会の見学施設として、多大なご協力を賜りました、愛知県がんセンター中央病院、神戸大学医学部附属病院、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、東京医療センター、東邦大学医療センター大橋病院、北海道がんセンターの皆様にご心から感謝申し上げます、末尾の言葉とさせていただきます。

がん患者への介入や薬薬連携を進めるうえで見学会に参加することは有用だと思いませんか? (n=33)



病院を見学してがん治療における患者との関わりに変化がありましたか? (3か月後) (n=21)

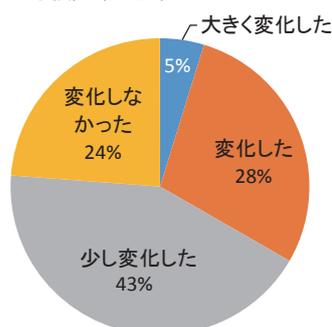


図3 アンケート調査



平成28年7月26日

日本臨床腫瘍薬学会
会員各位

会誌編集委員長
橋本 浩伸

論文掲載延期のお詫び

拝啓

会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は日本臨床腫瘍薬学会雑誌（JJASPO）運営にご協力頂き厚く御礼申し上げます。

さて、平成28年度JJASPOでは皆様から投稿頂いた論文を掲載すべく、3月より受付けを開始し編集委員会で査読、編集作業を進めて参りました。本来ですとJJASPOは6月に発刊すべきですが論文の修正・編集作業に時間がかかっており遅れているところです。大変申し分けありません。

また、論文掲載可能な状況で6月号を発刊するには更に2ヶ月程を要することが予想されます。

そのため本号は論文掲載を行わず寄稿のみで発刊させて頂ければと考えております。

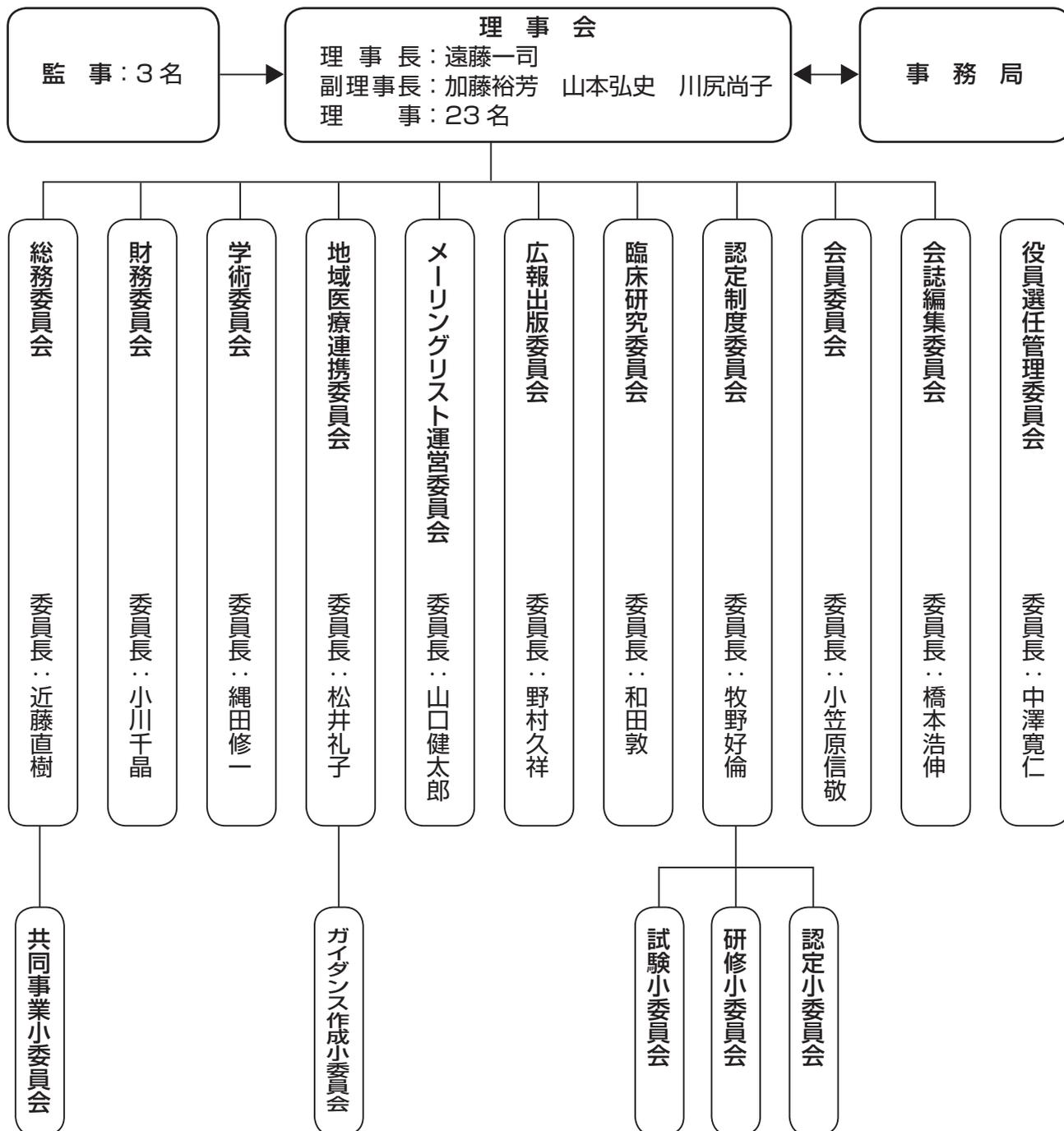
編集委員会は編集委員を増強し鋭意作業を進めており次号では論文をお届けできると思います。

本学会が発信する論文を楽しみにしておられた会員の皆様には深くお詫び申し上げます。

引き続きJJASPOへの投稿を心よりお待ち申し上げます。

敬具

総 会



日本臨床腫瘍薬学会雑誌 Vol.4

発行者 一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会

〒104-0045
東京都中央区築地2-12-10
築地MFビル26号館5階 (株)朝日エール内
TEL 03-5565-5695
FAX 03-5565-4914
Email jaspo@ellesnet.co.jp

発行責任者 一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会

代表者 遠藤 一司

編集委員 井上 登, 加藤 裕芳, 加藤 裕久,
河添 仁, 清水 久範, 野村 久祥,
橋本 浩伸, 藤田行代志



一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会